

公民館

28年度事業計画

昭和二十八年年度の事業計画が決定したが、その主な事業を拾つて見るに左記の通りで、町民各位の協力と援助を願ひ度い。

記

- 四月 月 公民館運動 優良公民館視察教育視察 講演会、映画会
五月 月 子供生大会(子供の日) グランド開き並に記録会 スクエアドンス講習会、社交ダンス大会、看護法講習会、映画技術者講習会、映画会、館報十二号発行、町民釣大会
六月 月 優良商店街視察、総合展覧会 近郷短歌大会、俳句大会、写真撮影大会、民謡及日本舞踊講習会、映画会
七月 月 定期講習開演、講演会、図書室研究整備、少年野球大会、籠球大会、町内対抗力大会、町民釣大会、映画会、館報十三号発行
八月 月 町内対抗青年体育大会、町内対抗野球大会、柔道夏稽古、近郷短歌大会、染物講習会
九月 月 町民大運動会、近郷野球大会 近郷柔剣道大会、芸能講習会 討論会、俳句会、映画会、館報十四号発行
十月 月 郡公民館協議会主催視察教育研究大会、近郷角力大会、芸能講習会、生活改善講習会、敬老会、講演会、映画会
十一月 月 文化祭、菊、生花、書、絵画展覧会、芸能大会、囲碁将棋大会、スクエアドンス講習会、映画会、漬物講習会、先進地視察、館報十五号発行 町民短歌大会
十二月 月 少年部指導講習会、経済講習会、座談会、映画会
一月 月 成人式、柔道稽古、映画会 スクエアドンス講習会、館報第十六号発行
二月 月 農村生活改善講習会、講演会 剣道稽古
三月 月 町民講習会、剣道大会、映画

風合戦期間中の催し物

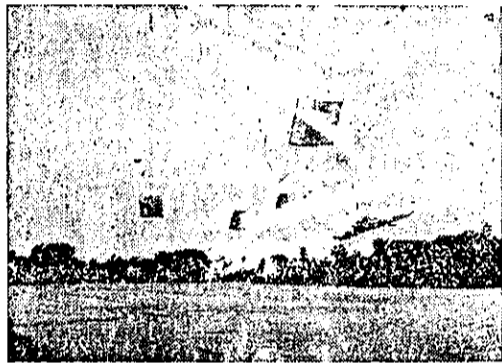
第二回総合展覧会
六月十日より十四日まで
会場 役場 三階
絵画・写真・活花・書道・並に子供生大会に入選した作品を一堂に陳列して第二回総合展覧会を開催する。絵画の部は町の美術団体審査員が中心になって力作が出品される。写真・活花・書道も新人をまじえて新しい感覚をもつたよい作品が陳列されて、なかなか見ごたえのある展覧会になることと期待してもよい。

白根物産展示会

7日~14日 役場2階

郷土の誇り「大風合戦」

若葉の色鮮やかな、いちよりの街路樹の美しさが見られる頃になると、今年も風合戦の近づいたことを感じる。風にざわめく葉ずれ音を聞くことに、この町の若人たちの心は弾むのである。
親の親からうけついで
風合戦にわきたつ男の意気よ
伝統を誇る白根大風合戦は、いよいよ来る六月七日より十四日まで、中川を挟んで展開される。



7日より 6月14日まで 期間

更に機械化す 白根町消防団

今回白根町消防団では旧第一分団の手取ガソリンポンプの老齢再建不能に依つて、大所高所より検討の結果、第一、第二分団合併による機械化を決定。五月十一日両分団六十名の勇退と共に即日二十名の新団員が任命された。第一分団と合併する事になり、分団長は大井勝一に決定した。従つて三分団(自動車班)は第二分団、四分団は第三分団、五分団は第四分団と改称する事になった。第一分団の自動車ポンプは七月に到着予定であるが、その間旧三分団ポンプを臨時使用する。猶今回を以て辞任された方々のため感謝の金が開かれ、永年功績者には町長より表彰状に記し品が贈られた。

栄誉に輝く 竿頭級の授與

国家消防庁より昭和二十八二月十一日付を以て白根町消防団に対し、技術訓練設備の強化を称せられ、竿頭級が授与された。団は一丸となつてこれにこたへ、可く一層の練磨を期して居る。

社会教育委員設置

新設の社会教育委員は左記の七氏に決定教委より委嘱された。
皆沢英太郎 眞島如龜雄
田中安太郎 長井 平松
清水 節義 大関 清一
石川ギヨウ

四月二十九日より五月五日迄の一週間、全国的にレクリエーション週間が実施されたが、公民館では左記行事を催した。
◇郷土史大講演会
四月二十六日、郷土史の大家、県社会教育委員齋藤秀平先生を招聘し、白根町を中心とした郷土史の大講演会を開催された。聴衆者約二百五十名、一同に感銘を与へ、文化の向上に資するところ大きなものがあった。

◇町民釣大会
五月三日、西浦原の広野の中心を流れる新川に於て、町民釣大会を開催した。
大魚賞
一等 竹石 末吉
二等 飯原 久太郎
三等 袖山 忠一
個人賞
一等 長谷川 甲作
二等 佐藤 久一
三等 塩田 寅造

◇楽しかった 子供生大会
五月五日、「子供の日」を祝つて第一回子供生大会が開かれた。入選者左の通り
◆中学生の部
特選 町長賞 富田 晴
公民館長賞 伊藤 和夫
公民館長賞 長沼 一子
賞券金賞 水野 秀元
入山 浩子
加茂 光男

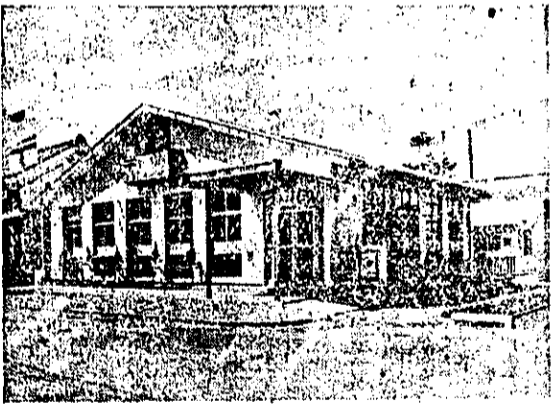
◇入選木下 昭榮 五十嵐 誠
野沢 勝司 西沢登美子
田辺 敏榮 小林 周榮
竹内 英子 星野 泰子
阿部 堅 齋藤 貴志
坪井長一郎 齋藤 敏
阿部タカ子 小林 桂子
尾竹 聖一 大旗 進
神田 正三 星野 紀彦
内山 紀彦 星野 関松
佳山 水林 佐藤 幸子
笠原記代子 二見 義隆
以上三十名

◆小学生の部
特選 町長賞 室崎重佐子
教育委員賞 星野 渥子
公民館長賞 五十嵐 健也
賞券金賞 高木 久子
武石 誠
西村 稔

入選木下 昭榮
吉沢 良子 金子 文男
大瀬フミ子 小柳シゲ子
間島 文男 吉田 恵子
森沢 美恵 大旗 孝
小林 進 星野 昭子
小林 誠司 野沢 節子
田村 愛 野沢 勝
富田 浩子 高取 君枝
渡辺奈々子 藤本 克茂
山口 光子 五十嵐 寛
外川 弘美 齋藤 繁
関根 卓夫 片野実知子
水野 美代 木村 興平
夏川 嗣子 吉川 幸子
長谷川栄子 木下 一子
田村 和男 吉原 きみ
皆川 敦子 吉沢八重子
長井 吟子 近藤 昌夫
中村 尚美 以上四十五名

白根郵便局落成

総工費三、〇〇〇円、(坪数八七坪)を以て新春一月落成した局舎は、竣工、その偉観は横町の面目を一新し、町の発展と文化の向上に寄与する。処大いなるものが、室内は広く明るく、清新な気分が満ち、能率の増進と相俟ち、今後皆様の充分なサービスが期待される。
向五月十六、十七日の両日新築落成を記念して新局舎を一般に開放し、郵政文化展、映画の夕郵、多彩な行事が行われ盛會を極めた。



(新局舎の全貌)

白根町農業の現況

文化農村建設に併せて農家経済克服の爲には、土地の高度利用による総合生産力の増強にあることは既定の方針である。之を実現する一段階は土地の改良である。政府も農家食糧増産の改良を合せて農業増産計画を立案、之を実施せられつゝあつたが、二十六年度より更に積雪寒冷作地帯振興法を以て促進援助の道が開けたのである。之までの地上排水の旅設を更に二段排水により、地下排水を暗渠工事によつて次々と実施せられて居る。白根町においては、戦後数年にして之等土地改良事業には既に主となる事業のみで一億何千万円、附帯工事に幾千万円と云ふ規模を投じて実行して居る。就中、須田村の北浦用水、庄瀬村十二道大排水、菱瀨用水、十二道用水、龍子二段排水、白井村二段排水、庚辰用水全地、鶴巻用水、大郷村下大郷機用水、鶴巻二段排水、根岸村上高井、中塩用水二段排水、白根町雨水の施設改修、古川浦二段排水、小林村鍋湯方面に二段排水二ヶ所、その他茨倉根村と共に戸頭大排水及び二段排水の設備、それに向も土地の完全なる脱田化には暗渠排水工事の必要があるので、年々二〇〇町歩近くの工事の施設が進められて居るので、速からず全地帯を完成したいのである。

好評博する 白根佛檀

白根の物産中特異な伝統を誇る物の一つに仏檀がある。漆黒の端正な美しさに、金飾りもまばゆい仏檀の製作は複雑な工程を要するのであり、現在之に關係する業者は白根屋十三彫刻師九、蒔絵師一、かざりや四、木地師十二と計三十九軒を数え、従業員は実に百名に上る。だが何れも伝統からか、大資本による一貫作業の有利さを知りつゝも、家内工業の規模を脱し切れぬ処に業界の悩みのあるわけ。種類も三十台から二百台迄六種に及ぶが、価格や大きさの点で五十台が多いと云う。販路も大正末期に新潟の下請時代を脱し、一躍直接取引に変わり、現在東北、北海道へ年産一千万円の七〇%を移出しているが、この際には故郷の御苦労が滑んでいるとか、今後は関東方面へ大いに進出せん、と業界の抱負。名古屋、彦根、高岡産に比して優美、しかも価格の面で絶対大衆向な白根の仏檀が関東へ進出する日も遠からぬことである。

工場は山崎ヒュムへの道路上にあり、工場主の名田氏は中年の好紳士で、新進気鋭を何時迄も失はぬ青年の型で、この工場は何時迄も若々しさを維持してゆくであろう。製品はメッキとインキ。従業員は二十一名、現在メッキが主要製品で、銅、ニッケル、クロムに生れ変わるものである。大部分はシン部品である得意先は県内各地で月産四十万円を挙げている。
インキでは月産三十万円、原料はタニイサン、硫酸第一鉄、染料、酸性となつて居る。三千リッターを三ヶ月貯蔵してから上澄みを汲みとりダイヤモンドインキとして市場へお目見得する。製品の大部分は東京のダイヤモンドへ送りそこから註文先へ発送されているのが現状である。

